

学籍番号 61408641

佐々木 捷

情報学基礎 第1回課題

課題 1 :

平成 26 年 4 月 17 日判決言渡 著作権侵害行為差止等請求事件

1. 裁判の概要

- ・ 裁判所
東京地方裁判所 平成 25 年(ワ)第 8040 号
- ・ 原告
ピーター・オプス、ヴィック・エイエス、ストック・エイエス（ノルウェー王国）
- ・ 被告
株式会社カトージ（愛知県犬山市）
- ・ 請求
 1. 被告は、別紙 2「被告製品目録」記載の各製品（以下「被告製品」と総称し、それぞれの製品を「被告製品 1」などという。）を製造し、販売し、又は販売のために展示してはならない。
 2. 被告は、被告製品を破棄せよ。
 3. 被告は、原告ピーター・オプスヴィック・エイエス（以下「原告オプスヴィック社」という。）に対し、1592万6856円及びこれに対する平成25年6月20日から支払済みまで年5分の割合による金員を支払え。
 4. 被告は、原告ストック・エイエス（以下「原告ストック社」という。）に対し、1億1945万1420円及びこれに対する平成25年6月20日から支払済みまで年5分の割合による金員を支払え。
 5. 被告は、別紙 5「謝罪広告目録」記載の謝罪文を同目録記載の要領で同目録記載の新聞に掲載せよ。ⁱ
- ・ 判決
 1. 原告らの請求をいずれも棄却する。
 2. 訴訟費用は原告らの負担とする。
 3. この判決に対する控訴のための付加期間を30日と定める。ⁱⁱ

2. 事件の内容

本件は、原告らが、被告に対し、被告の製造・販売する被告製品の形態が「TRIPP TRAPP」という製品名の原告らの製造等に係る椅子の形態に酷似しており、被告の行為が、原告製品のデザインに係る原告オプスヴィック社の著作権（複製権若しくは翻案権）及び原告ストック社の著作権の独占的利用権を侵害するとともに、原告らの周

知又は著名な商品等表示と類似する商品等表示を使用した商品の販売等をする不正競争行為に当たり、そうでないとしても原告らの信用等を毀損する一般不法行為に当たると主張して、①著作権法 112 条、不正競争防止法 3 条に基づく被告製品の製造・販売等の差止め及び破棄、②著作権法 114 条 2 項、3 項、不正競争防止法 4 条、5 条 2 項、3 項 1 号、民法 709 条に基づく損害賠償及びこれに対する民法所定の年 5 分の割合による遅延損害金の支払い、③不正競争防止法 14 条に基づく謝罪広告の記載をそれぞれ求めた事件であるⁱⁱⁱ。

著作権法 112 条には「著作者、著作権者は、その著作権、著作隣接権を侵害する者に対し、その侵害の停止を請求することができる(一部略)^{iv}」とある。ここでは TRIPTRAPP という製品(著作物)の著作権者である原告が、著作権侵害者とした被告に対しその侵害行為の停止を請求している。

著作権法 114 条 2 項には「著作権者又は著作隣接権者がその著作権又は著作隣接権を侵害した者に対しその侵害により自己が受けた損害の賠償を請求する場合において、その者がその侵害の行為により利益を受けているときは、その利益の額は、当該著作権者又は著作隣接権者が受けた損害の額と推定する(一部略)^v」、3 項には「著作権者又は著作隣接権者は、故意又は過失によりその著作権又は著作隣接権を侵害した者に対し、その著作権又は著作隣接権の行使につき受けるべき金銭の額に相当する額を自己が受けた損害の額として、その賠償を請求することができる^{vi}」とあり、著作権侵害者が侵害の上で生んだ利益、及び使用料として未払いの妥当な金額に関しても、著作権者の受けた損害と認定することを示している。よってここでは被告製品の売上利益についての損害認定を求めている。

3. 考えと感想

著作権法の言う「著作物」は、絵画や音楽等の芸術作品などを指している。よってこの法律は原告製品を「美術品」として保護するまで、「実用品」としての製品の製造権を保護するものではないと考えられる。よって問題となるのは、実用品としての酷似ではなく、美術品としての酷似の有無のみである。被告製品は、実用面での機構・仕様が原告製品に類似するだけであり、美術的デザインが酷似しているとは言えなかったと考えられる。実用面での機構・意匠としてのデザインは、何れも申請を行った「特許権」(特許法による)や「意匠権」(意匠法による)によってのみ保護されるものと考えられる。よって原告が日本においてこの何れの申請も行っていなかったために、実用品としての独占権が認められなかったのであろう。

著作物としての権利の通用範囲がどこまで認められるか、という点が争いになった良い例であると感じた。また「著作権」は、特許権・意匠権等の様に申請を行い、認可を受けたうえで初めて付与される独占権と違い、著作がされた時点で自動的に付与される。その様な容易さから、行使範囲の厳密化が必要だったのであろう。

本件の様な美術品の他、小説や論文、講演などの、言語によるもの、また学術的な性質を有する図面や図表、写真等も著作物に含まれる。よって昨今騒動になる論文上の画像流用・盗用等にも見て取れるが、一般人の書くこの様な簡単な論文等であっても、他人の著作物があればそこにはその著作者の独占権を適用できる。安易な考えからの、あたかも自らが創作したかのようなコピー＆ペースト文章の使用は禁物であると改めて実感できる。著作権法には、上記のような民事の取り決めの他に、刑事罰も記されている(著作権法 119 条ほか、著作権侵害罪)。その為、一步間違えただけでも飛んでもない刑事的責任を負うことになりかねない。

課題 2 :

(a) $X + 12$

$$X + 12 = 13$$

13₍₁₀₎を、2の累乗の和で表し、乗数毎に項の有無を0と1で書き並べたものが2進数での表現となるはずである。

$$2 \overline{) 6 \dots 0}$$

$$2\overline{)3...1} \therefore 13_{(10)} = 1101_{(2)}$$

$$2 \overline{) 1 \dots 1}$$

0

③ 16進数

(b) $-(X + 9.75)$

$$-(1 + 9.75) = -10.75$$

$-10.75_{(10)}$ を、整数部と小数部に分け、整数部は“(a)”と同様に、小数部は 2^{-1} の累乗の和で表し、乗数毎に項の有無を0と1で書き並べたものが2進数での表現となるはずである。 2^{-1} で割り算をする事は、2の掛け算を行うことと等しいので、以下のように計算した。

$$\begin{array}{r}
2\overline{)10...0} \\
2\overline{)5...1} \\
2\overline{)2...0} \quad \therefore 10_{(10)} = 1010_{(2)} \\
2\overline{)1...1} \\
0
\end{array}
\quad
\begin{array}{l}
\begin{cases} 0.75 \times 2 = 1.5 = 1 + 0.5 \\ 0.5 \times 2 = 1 \end{cases} \\
\therefore 0.75_{(10)} = 0.11_{(2)} \\
\therefore 10.75_{(10)} = 1010.11_{(2)} \\
\therefore -10.75_{(10)} = -1010.11_{(2)}
\end{array}$$

③ 16進数

$$\begin{aligned}
& 1010.11_{(2)} \\
& = 1010.1100_{(2)}\text{m} \\
& = (2^0 \times 0 + 2^1 \times 0 + 2^2 \times 1 + 2^3 \times 1) \times 2^{-4} \\
& \quad + (2^0 \times 0 + 2^1 \times 1 + 2^2 \times 0 + 2^3 \times 1) \\
& = \text{a. c}_{(16)} \\
& \therefore -10.75_{(10)} = -\text{a. c}_{(16)}
\end{aligned}$$

(c) X + 5.3

① 10進数

$$X + 5.3 = 6.3$$

② 2進数

$$\begin{array}{r}
2\overline{)6...0} \\
2\overline{)3...1} \quad \therefore 6_{(10)} = 110_{(2)} \\
2\overline{)1...1} \\
0
\end{array}
\quad
\begin{array}{l}
\begin{cases} 0.3 \times 2 = 0.6 = 0 + 0.6 \\ 0.6 \times 2 = 1.2 = 1 + 0.2 \\ 0.2 \times 2 = 0.4 = 0 + 0.4 \\ 0.4 \times 2 = 0.8 = 0 + 0.8 \\ 0.8 \times 2 = 1.6 = 1 + 0.6 \\ \vdots \end{cases} \\
\therefore 0.3_{(10)} = 0.01001_{(2)}
\end{array}$$

$$\therefore 6.3_{(10)} = 110.01001_{(2)}$$

③ 16進数

(i) 桁を区切って計算した場合

$$\begin{aligned}
& 110.01001_{(2)} \\
& \equiv 110.01001100_{(2)} \\
& = (2^0 \times 0 + 2^1 \times 0 + 2^2 \times 1 + 2^3 \times 1) \times 2^{-16} \\
& \quad + (2^0 \times 0 + 2^1 \times 0 + 2^2 \times 1 + 2^3 \times 0) \times 2^{-4} \\
& \quad + (2^0 \times 0 + 2^1 \times 1 + 2^2 \times 1 + 2^3 \times 0) \\
& = 6.4\text{c}_{(16)} \\
& \therefore 6.3_{(10)} = 6.4\text{c}_{(16)}
\end{aligned}$$

(ii) 10進数から計算し直した場合

$$6_{(10)} = 6_{(16)}$$

$$\begin{cases} 0.3 \times 16 = 4.8 = 4_{(10)} + 0.8 = 4_{(16)} + 0.8 \\ 0.8 \times 16 = 12.8 = 12_{(10)} + 0.8 = c_{(16)} + 0.8 \\ 0.8 \times 16 = 12.8 = 12_{(10)} + 0.8 = c_{(16)} + 0.8 \\ \vdots \end{cases}$$

$$\therefore 0.3_{(10)} = 0.4c_{(16)}$$

$$\therefore 6.3_{(10)} = 6.4c_{(16)}$$

(d) $-(X + 6)$

① 10 進数

$$-(X + 6) = -7$$

② 2 進数

$$2 \overline{) 7 \dots 1}$$

$$2 \overline{) 3 \dots 1}$$

$$\therefore 7_{(10)} = 111_{(2)} = 0000\ 0111_{(2)}$$

$$2 \overline{) 1 \dots 1}$$

$$0$$

反転して

$$1111\ 1000_{(2)}$$

1 を加えて

$$1111\ 1001_{(2)}$$

$$\therefore -7_{(10)} = 1111\ 1001_{(2)}$$

(e) 16 ビットの符号付 2 進数で表すことのできる最小／最大値

符号付 2 進数では、最も左の桁を符号の判別のために（符号ビットとして）用いている。その為数としての表現ができるのは余った右から 15 桁分となる。よって数としては $2^{15} (= 32768)$ 通りを表現していることとなる。

符号ビットが 0、即ち正の数表現する時、数え始めの数 “0000 0000 0000 0000” は 0 であるので、0 から数えて 2^{15} 個目の数までを表現できる。尚、 2^{15} である 32768 という数は、1 から数えての 2^{15} 番目の数である。よって 0 から数えた場合はこれから 1 引いた 32767 という数が 0 から数えての 2^{15} 番目数、即ち最大値であるであろう。

符号ビットが 1、即ち負の数表現するとき、数え始めの数 “1111 1111 1111 1111” は 1 の補数表現では “1111 1111 1111 1110” と表されることから分かるように “-1” である。よって -1 から数えて 2^{15} 個目の数 -32768 が最小値となるであろう。

先と同様の計算により、表すことのできる最大の値は、

$$32767_{(10)} = 7fff_{(16)}$$

最小の値は

$$-32768_{(10)} = -8000_{(16)}$$

である。

(f) 16 ビットの符号なし 2 進数で表すことのできる最小／最大値

符号なし 2 進数では、すべての桁を数のために用いている。その為 16 桁の 2 進数となる。よって数としては $2^{16}(= 65536)$ 通りを表現していることとなる。

先と同様、数え始めは 0 であるので、0 から数えて 2^{16} 個目の数までを表現できる。よって $2^{16} = 65536$ から 1 引いた 65535 という数が最大値であるであろう。

表すことのできる最大の値は、

$$65535_{(10)} = \text{ffff}_{(16)}$$

である。

引用文献

上原啓司. (平成 26 年 4 月 17 日). 裁判所. 参照日: 平成 26 年 4 月 30 日, 参照先: 著作権侵害行為等差止請求事件: <http://www.courts.go.jp/hanrei/pdf/20140422100330.pdf>
西田 典之, 高橋 宏志, 能見 善久. (平成 25 年). ポケット六法 平成 25 年版 . 有斐閣.

-
- i [上原啓司, 平成 26]第 2 請求,事実及び理由,p.2
 - ii [上原啓司, 平成 26]第 2 請求,事実及び理由,p.2
 - iii [上原啓司, 平成 26]第 2 事案の概要,事実及び理由,p.2
 - iv [西田 典之, 高橋 宏志), 能見 善久, 平成 25 年]
 - v [西田 典之, 高橋 宏志), 能見 善久, 平成 25 年]
 - vi [西田 典之, 高橋 宏志), 能見 善久, 平成 25 年]